

2021年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	財政学 (Public Economics)		
ナンバリングコード	E20408	大分類 / 難易度 科目分野	経営経済学科 専門科目 / 標準レベル 経済学
単位数	4	配当学年 / 開講期	2年 / 後期
必修・選択区分	選択: 経営経済学部 コース選択必修: 情報メディア学科 情報コミュコース ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	E020051	クラス名	-
担当教員名	森田 和子		
履修上の注意、履修条件	はじめて財政学を学ぶという前提で講義します。経済学の知識が十分なくとも理解できますが、政府の経済活動に関心をもって受講してください。 出席を重視します。休んだ時はプリントを自習し、提出してください。		
教科書	教科書は使用しません。各回、講義ノートのプリントを配布し、重要事項を書き込んでもらいます。		
参考文献及び指定図書	必要に応じて指示します。また、必要な資料はコピーして授業時に配布します。		
関連科目	経済学入門		

○基本情報							
授業の目的	私たちに身近な財政を、経済のしくみ、受益と負担、公平、義務などの視点から学び、専門的な知識を深めていきます。						
授業の概要	財政とは、財政学の研究の歴史、公共財、租税、公債、財政政策、日本の財政、地方財政についての基礎的な講義。						
授業の運営方法	<table border="1"> <tr> <td>(1) 授業の形式</td> <td>「講義形式」</td> </tr> <tr> <td>(2) 複数担当の場合の方式</td> <td>「該当しない」</td> </tr> <tr> <td>(3) アクティブ・ラーニング</td> <td>「該当なし」</td> </tr> </table>	(1) 授業の形式	「講義形式」	(2) 複数担当の場合の方式	「該当しない」	(3) アクティブ・ラーニング	「該当なし」
(1) 授業の形式	「講義形式」						
(2) 複数担当の場合の方式	「該当しない」						
(3) アクティブ・ラーニング	「該当なし」						
地域志向科目	該当しない						
実務経験のある教員による授業科目	該当しない						

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	提出期限までにレポート、答案を書くための準備をし、まとまった内容に仕上げることができる。	10点	10点	
【知識・理解】	講義での説明をもとに、財政学の基本的な内容を理解できたか。	30点	30点	
【技能・表現・コミュニケーション】				
【思考・判断・創造】	現代の政府の役割と財政問題について考える。	10点	10点	

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)
出席30点、レポート10点、試験60点で評価します。出席がやむを得ぬ事情で基準を満たせない場合は、レポートを追加で提出すること。S評価: 出席が90%以上あり、レポート・試験との合計点が90点以上あること。財政学の内容を非常によく理解しており、論述の解答にもそれが反映されていること。A評価: 出席が80%以上あり、レポート・試験との合計点が80点以上あること。財政学の内容を理解できており、論述もしっかり書けていること。B評価: 出席、レポート、試験の合計点が70点以上あること。財政学の内容をほぼ理解できていて、論述も自分の選択したテーマで書けていること。C評価: 出席が67%以上あり、レポート、試験の合計が60点以上あること。

○その他
期末試験の講評については授業アンケート回答に記載します。

2021年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名 担当教員	財政学 (Public Economics) 森田 和子	授業コード	E020051
学修内容				
1.				
第1回 イントロダクション(1) 財政とは、財政学とは。第1回の講義では、まず、財政学が研究対象とする財政とは何かを考える。狭い意味では、財政は「政府の収入と支出」をさすが、財政学の研究はそれだけにとどまらず、より広く「政府の経済活動」全体を扱う。経済学入門で学んだ企業・家計の活動を主体とした民間部門に対して、政府を中心とした公共部門の存在を確認する。				
予習	このシラバスを読んでおく。力のある人は財政学の教科書を図書館で手に取り、目次に目をとおしておく。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、重要事項の確認と整理をする。			約2時間
2.				
第2回 イントロダクション(2) 市場の経済活動と政府の役割。政府の経済活動を理解するために、その特徴を市場の経済活動と比較して考える。競争原理にもとづく市場のしくみにはすぐれた面もあるが、失業の発生など解決できない問題もある。このことを「市場の失敗」と呼び、その解決のためには政府の役割が期待される。ここから現代の経済は、市場と政府が補い合う「混合経済」となっている。				
予習	自由主義経済のもとでの企業と家計の行動動機はなにかを確認しておく。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、重要事項の確認と整理をする。			約2時間
3.				
第3回 イントロダクション(3) 政府の役割と問題点。政府の活動の特徴を民間部門と比較して考える。政府は強制的に税を徴収することで資金を調達し、公共の利益を追求するために活動する。政府は市場の活動を規制・補完し、また民間部門が行わない(行えない)活動をかわって行う。政府の活動の課題としては増え続ける財政赤字の問題、公共サービスの費用負担の公平性などがある。				
予習	政府はどのような活動をしているのか、その目的は何かを考えてみる。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、重要事項の確認と整理をする。			約2時間
4.				
第4回 イントロダクション(4) 市場の失敗と政府の役割。経済は市場の活動だけではうまくいかない。このことを「市場の失敗」という。今回は市場が失敗するのはどのような時かを、1.競争の失敗、2.公共財、3.外部性、4.不完全情報、5.失業、インフレーションの5つにわけて検討する。このような時、政府はどのような役割をはたすのか。				
予習	経済学の教科書などで「市場の失敗」とは何かを調べてみる。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、重要事項の確認と整理をする。			約2時間
5.				
第5回 財政学研究の歴史(1) 全体の概観:現代にいたるまでの大きな流れ。財政学はいつごろからどのような形で始まったのだろうか。これから3回の講義は、財政学研究の歴史を学ぶ。意外なことに財政学のもとになる学問は、近代になってから生まれた古典派経済学より前から存在する。それを官房学という。官房学、古典派経済学の財政論、新しいヨーロッパ大陸の財政論の順に講義を進める。				
予習	古典派経済学についてこれまで学んだことを復習しておく。(いつごろ成立したか、主な経済学者はだれか)			約2時間
復習	講義ノートを見直し、重要事項の確認と整理をする。			約2時間
6.				
第6回 財政学研究の歴史(2) イギリス古典派経済学における財政論(伝統的財政論)。18世紀後半(1770年代)にアダム・スミスを祖として誕生した経済学派を古典派経済学という。アダム・スミスは「諸国民の富」(「国富論」とも訳される)の中で政府の役割や租税原則についてどのように述べているか。また、公平な課税とはどのような課税をいうかを調べてみる。				
予習	アダム・スミスについて調べてわかったことをメモしておく。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、重要事項の確認と整理をする。			約2時間
7.				
第7回 財政学研究の歴史(3) ヨーロッパ大陸の新しい財政学について。古典派経済学誕生からほぼ100年後の1870年代。新古典派経済学が誕生した時期と重なるが、イタリアとスウェーデンの学者たちによって新しい財政論が誕生する。それは伝統的財政論とはどのような点がちがう財政論だったのか。公的欲求の発見、利益説の復活、租税価格論などを中心に説明する。				
予習	進んで勉強できる学生は、1870年代が経済学の歴史上、どのような時代だったかを調べてみる。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、重要事項の確認と整理をする。			約2時間
8.				
第8回 公共財の理論(1) 公共財とは。第8回の授業は、前回学んだヨーロッパ大陸の財政論で研究された公共財の理論の内容を引き継いでいる。市場で貨幣と交換に取引される財を「私的財」(Private Goods)と呼ぶのに対し、政府が供給する財を「公共財」(Public Goods)と呼ぶ。公共財は私的財とどのような点がちがうのかを、3つの特徴で説明する。3つの特徴のすべてをそなえている公共財は「純粋公共財」と呼ばれる。				
予習	財政学の教科書の公共財の章に目を通しておく。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、重要事項の確認と整理をする。			約2時間

○授業計画	科目名 担当教員	財政学 (Public Economics) 森田 和子	授業コード	E020051
学修内容				
9.				
第9回 公共財の理論(2) 今回は混雑現象、便益のスピルオーバーについて現実の社会にみられる公共財の特徴を考え、さらにマズグレイブの価値財について説明する。マズグレイブは市場で取引できる私的財のなかには政府がその供給に積極的にかわったり、抑制したほうがよいものがあることを見出し、そのような財を「価値財」と名付けた。具体例とともにみていく。				
予習	前回学んだ公共財の3つの特徴についてもう1度、確認しておく。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、重要事項の整理をする。			約2時間
10.				
第10回 公共財の理論(3) 公共財の需要曲線。今回は公共財の需要曲線の求め方を私的財の場合と比較して考える。単純化のために社会を構成するメンバーが3人しかいないとし、各人はそれぞれ異なった財への選好をもっているとする。単純に価格に対しての各人の需要量が示される私的財の需要曲線に対して、公共財は価格をつけることが出来ない。このとき、どのように需要曲線が示せるのかをみていく。				
予習	経済学入門で学んだ需要曲線の基本概念をもう1度確認しておく。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、重要事項の整理をする。			約2時間
11.				
第11回 租税論(1) 第11回からは政府の収入となる租税について6回にわたって学ぶ。まず、租税とは何かについて。租税の歴史と納める根拠をみていく。次に租税の分類では、どこにおさめるのか、使いみちが徴税段階で決まっているのかどうか、そして税の転嫁があるかどうかの3つについてみていく。				
予習	私たちはなぜ税を納めねばならないのかについて各自で考え、調べてみる。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、重要事項の整理をする。			約2時間
12.				
第12回 租税論(2) 租税の転嫁。間接税にみられる租税の転嫁について学ぶ。税の転嫁について理解するには、納税義務者と納税者を区別して考える。すべての税で納税義務者が納税者になっているとは限らない。転嫁の種類として、前転・後転・消転について学ぶ。				
予習	前回学んだ直接税と間接税について具体的にどのような税があるか調べておく。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、重要事項の整理をする。			約2時間
13.				
第13回 租税論(3) 租税原則・課税の公平について学ぶ。租税原則とは、課税のあるべき姿、望ましさを判断する基準である。伝統的にはアダム・スミスの4原則、ワグナーの9原則が知られる。これに対して、現代の租税原則である公平・中立・簡素がどのような観点からできたのかを知る。				
予習	アダム・スミスの4原則、ワグナーの9原則について調べておく。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、重要事項の整理をする。			約2時間
14.				
第14回 租税論(4) 所得税。日本の所得税の税率体系について学ぶ。所得税は超過累進課税で、課税所得の区分が上がるごとに税率が上昇する仕組みになっている。この点で税率が1つしかない所得税と異なる。過去の税制改正によって税率がどのように変わってきたのかについても学ぶ。				
予習	所得の種類は10種類あるのでそれが何かを調べておく。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、重要事項の整理をする。			約2時間
15.				
第15回 租税論(5) 課税の経済効果。第15回と第16回は課税の経済効果について学ぶ。課税はどのような効果をもたらすのかを第15回は消費への課税から考える。理論的分析では生活必需品とぜいたく品の場合にわけて需要曲線をつかった分析をする。実証分析では、たばこへの課税が消費を減らす効果が過去にみられたことを紹介し、課税の政策目標についても考える。				
予習	生活必需品が非弾力的な需要曲線、ぜいたく品は弾力的な需要曲線となることを確認しておく。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、重要事項の整理をする。			約2時間
16.				
第16回 租税論(6) 第16回は所得への課税が労働供給にあたる効果について学ぶ。所得に課税されることで、受け取る所得(可処分所得)は減るわけだが、この時、人々は所得の減少分を補うためもっと働こうとするのか、それとも課税されることを嫌って労働供給を減らすのかを考える。次にラフファー曲線から所得税率と税収の関係をみていく。レポート課題:第16回の授業までに学んだ財政学研究の歴史、公共財、租税論の中から、関心のもてたテーマ1つを選び、レポート用紙1枚にその内容をまとめる。提出は、第23回の講義終了まで(12月の最後の授業)に出すこと。(2h)				
予習	労働供給とは何か、所得効果と代替効果のちがいについて調べておく。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、重要事項の整理をする。			約2時間

2021年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名 担当教員	財政学 (Public Economics) 森田 和子	授業コード	E020051
学修内容				
17. 第17回 公債論(1) 第17回から第19回は、公債論の基礎を学ぶ。公債は政府の借入であり、税とは別の資金調達手段である。国が発行するものを国債、地方政府が発行するものを地方債とよぶ。公債の発行(起債)から償還までの期間が、短いものもあれば長いものもある。また、国内で発行されるか国外で発行されるかによる分類、発行の目的による建設国債か赤字国債かの分類がある。				
予習	国債、地方債とは何かを調べておく。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、重要事項の整理と確認をする。			約2時間
18. 第18回 公債論(2) 財政法第4条の規定で、日本では公債発行を原則禁止している。しかし、現実には建設国債と赤字国債が発行されている。公債の消化方法には、市中消化と日銀引受けの2つがあること、公債発行が正当化される理由について学ぶ。				
予習	公債はなぜ発行されるのかについて考え、調べておく。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、重要事項の整理と確認をする。			約2時間
19. 第19回 公債論(3) 租税も公債もどちらも政府の資金調達方法だが、どのような点に相違があるのだろうか。租税と公債を比較する。最後に、公債発行を否定的にとらえる均衡財政主義の財政運営と、公債発行を肯定的にとらえるケインズ型財政運営の2つの考え方をみていく。				
予習	これまでの講義をもとに、公債発行が悪いものかそうでないかを考えておく。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、重要事項の整理と確認をする。			約2時間
20. 第20回 フィスカルポリシーの理論(1)(不況・失業問題解決のための財政政策) 第20回と第21回は、世界大恐慌後の不況・失業問題解決のためにケインズによって提唱されたフィスカルポリシーの理論について学ぶ。そのため第20回では、理論出現の背景となった出来事とこれまでの古典派経済学の説明、そしてケインズのとらえ方はどこが違うかをみていく。				
予習	世界大恐慌について調べておく。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、重要事項の整理と確認をする。			約2時間
21. 第21回 フィスカルポリシーの理論(2)(不況・失業問題解決のための財政政策) 第21回はケインズ型財政政策の基本的な考え方を学ぶ。具体的な方法としては、財政支出による雇用創出と減税による方法がある。それぞれが乗数倍の所得創出効果があることを確認する。				
予習	「だれかの消費は、だれかの所得になる」というマクロの経済関係を確認する。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、重要事項の整理と確認をする。			約2時間
22. 第22回 財政の概況(1) 第22回と第23回は、最近の日本の財政の概況について学ぶ。第22回は、直近の一般会計予算の歳入と歳出の規模と内訳を調べる。歳入については、租税と公債収入の割合、どのような税金が租税収入の柱になっているかに注意し、歳出については、支出額の大きな費目は何か、国債費とは何かに注目する。				
予習	調べられれば、財務省ホームページなどで一般会計の総額などを調べておく。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、重要事項の整理と確認をする。			約2時間
23. 第23回 財政の概況(2) 第23回は、昭和50年代以降の約40年間の税収および国債発行額の推移から日本の財政の変化を調べる。税収も公債発行額も増えた時期があり、いつごろ、何をきっかけに変化したのか、原因を考察する。そして、今後の財政運営はどのようにあるべきかを考えてみる。				
予習	財政関係の資料をみると、棒グラフ、折れ線グラフの見方を確認しておく。縦軸に何がはかられているかな			約2時間
復習	講義ノートを見直し、重要事項の整理と確認をする。			約2時間
24. 第24回 予算制度(1) 第24回と第25回は予算制度について学ぶ。まず第24回では、財政民主主義と予算制度で、民主主義にもとづいた予算のあり方、予算編成、審議と成立、予算の執行、決算までの流れをみる。次に、あるべき予算の原則として、事前承認の原則などどのような原則が必要かを見ていく。				
予習	日本国憲法第7章財政を読んでおく。内閣と国会の役割を確認する。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、重要事項の整理と確認をする。			約2時間

○授業計画	科目名 担当教員	財政学 (Public Economics) 森田 和子	授業コード	E020051
学修内容				
25. 第25回 予算制度(2) 第25回は、予算の種類と予算改革について学ぶ。一般会計と特別会計のちがいを、暫定予算・本予算・補正予算について学ぶ。予算改革は、これまでに提唱された財政健全化のための予算改革の考え方を見ていく。				
予習	12月から1月までの新聞記事から予算に関するものをさがし、読んでみる。そこに出てくる専門用語を調べて			約2時間
復習	講義ノートを見直し、練習問題の復習をする。			約2時間
26. 第26回 地方財政(1) 第26回から第30回は地方財政を学ぶ。国の財政のほか、各地方自治体の財政が存在する。地方自治の精神とはなにか、地方財政はなぜ必要なのかを考える。最後に、地方政府の収入となる地方税のなかで、個人と法人が納める住民税をとりあげ、税収が多く得られる自治体とそうでない自治体があることに目をむける。				
予習	全国に地方自治体(都道府県と市町村の数)がいくつあるかを調べてみる。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、重要事項の整理と確認をする。			約2時間
27. 第27回 地方財政(2) 第27回は地方税の体系を学ぶ。主な地方税にはどのようなものがあるかを分類表を作成することで整理する。税源を所得・消費・流通・資産に分け、それぞれにあてはまる県税と市税を一覧表にする。いろいろな地方税が存在するが、税収が大きいものもあれば小さいものもあり、また景気の良し悪しでも税収が変化することに気付くだろう。				
予習	身近に存在する税で知っているものを書き出し、それが国税なのか地方税なのかを調べてみる。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、重要事項の整理と確認をする。			約2時間
28. 第28回 地方財政(3) 第28回と第29回は、国と地方の財政関係を学ぶ。全国の地方自治体には財政力に差があり、そのため多くに自治体は国からの財源移転を受けている。そこで第28回では、国からの財源移転の方法として、地方交付税交付金・国庫支出金・地方譲与税のあらましについてを学ぶ。				
予習	自主財源と依存財源について調べておく。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、重要事項の整理と確認をする。			約2時間
29. 第29回 地方財政(4) 前回につづき、国と地方の財政関係を学ぶ。まず、財政規模の比較では、国税によって得られる税収の方が地方税によって得られる税収より大きく、歳出面では逆に、国が行う事業よりすべての地方政府が行う事業の方が大きいことを知る。次に、国から地方への財源移転の方法を前回よりくわしく学ぶ。また、地方債の発行についても学ぶ。				
予習	住んでいる自治体の財政力指数を調べてみる。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、重要事項の整理と確認をする。			約2時間
30. 第30回 地方財政(5) 地方政府の財政支出。国の財政が、一般会計と特別会計から成るのに対し、地方財政は普通会計と公営事業会計から成る。普通会計に含まれる支出は、目的別分類と性質別分類の2つからみることができる。それぞれがどのような費目からなっているのか、そして支出額の大きいものは何かを、大分市について調べてみる。				
予習	大分市のホームページを見て、大分市の昨年度の歳入と歳出を調べてみる。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、重要事項の整理と確認をする。			約2時間
31. 期末試験 自分で書いた講義ノートおよび授業で配ったプリントの持ち込み許可で60分の試験を行う。授業の範囲の中から基本問題15問程度と自分で財政学で学んだ中から1題テーマを設定し、それについて調べたことも含めて論述問題を解答する。論述問題とは、自分の意見・感想・主張を書くことを意味しているのではなく、選んだテーマの内容についてのくわしい説明、そこで問題になっていることとその理由、今後の課題や解決策などを文章ですじみちだてて書くことをもめている。授業の最後にこの勉強をしておく。将来、卒業研究にとりかかる時、役に立つだろう。				
予習	これまでの講義ノートを見直し、論述問題のテーマを自分で決め、書く内容について調べ、メモしておく。			約2時間
復習	試験を受けて気付いたことやわからなかった問題について調べてみる。			約2時間
32.				
予習				
復習				